

| | 上流部会意見 | 中流部会意見 | 下流部会意見 | 全体会議 とりまとめ意見 |
|--------------------------|---|--|---------------------------------------|-----------------|
| 治水に関する意見 | 整備目標流量の検討(途中変更) | 地域間で治水安全度に差があるという情報は、大きなインパクトをもつ。 | 中ノ口川の河川整備の推進 | |
| | 超過洪水を念頭に置いた整備計画の立案 | ハード対策はしっかり行うべき | 洪水時における的確な堰・水門操作の実施 | |
| | 治水上のトラブルスポットの抽出 | 環境に配慮することは必要であるが、治水を第一とした整備計画を | 河川景観を含めて水害防備林の位置づけの検討 | |
| | 堤防と洪水調節施設の整備バランス | 環境と開発の共存は整備計画で非常に重要 | 地球温暖化(集中豪雨、ゲリラ豪雨)を踏まえた計画内容の検討 | |
| | 上下流の整備バランスの課題 | 水田の洪水調節機能の利用 | (住民までを含めた)洪水時における情報伝達体制の構築 | |
| | 立ヶ花狭窄部の対策が必要 | 当面は、大河津分水の河道改修が主となる | 障害者、高齢者の避難を考えた多様な手段での情報提供の推進 | |
| | 狭窄部の解決策の検討 | 内水問題について検討が必要 | 住民への防災意識の高揚に向けた具体的かつ、わかりやすい情報提供の実施 | |
| | 狭窄部の解決策の検討(上下流バランス) | 河畔林、溪畔林を計画的に盛り込む | 平常時からの住民への防災に関する情報提供の強化 | |
| | 完成堤防化、堤防強化による安全・安心の確保 | 治水対策では集中豪雨などがマキシマムに至った場合の対応 | 洪水ハザードマップの住民への周知とフォローアップの実施 | |
| | 狭窄部以外の治水対策の検討 | 地球温暖化への対応をどうするのか(小委員会の答申の取り扱い) | | |
| | 洪水調節施設の検討(ダム、貯水池) | 気候変化、地球温暖化への対応策の検討 | | |
| | 危機管理のためのソフト対策 | 過去の被災経験を生かしていく必要がある | | |
| | 情報の利活用のための支援活動 | 急激な河川の増水が問題(都市河川) | | |
| | 河川利用のための観測体制の強化 | 洪水予報等の住民への情報伝達方法が大きな課題 | | |
| | リアルタイム情報発信のための観測体制の強化 | 河川情報を看板のQRコードなどから取ることは重要。 | | |
| | 管理者間の境界条件の調整 | 事務所長から市町村長への情報ホットライン(80mmルール)を設置したことは、大きな進歩。 | | |
| | テレビ、ラジオ等能動型のメディアを利用した情報提供も検討すべき。 | | | |
| | 非常時において、コミュニティーFMは有効な情報伝達手段となる。 | | | |
| | 情報伝達で、携帯電話による防犯ネットワーク等既存のネットワークシステムの活用も有効である。 | | | |
| | ゲリラ的豪雨で生ずる増水被害の周知及び対策 | | | |
| | 流水調整機能の開発(高水・低水管理) | | | |
| 利水及び正常流量に関する意見 | 減水区間における流水の正常な機能の維持 | 水利用に関して、住民の関心が高い。 | 地球温暖化の影響による(農業用)取水期間の検討 | |
| | 環境用水のための水利権の上積み | 減水区間の対応では、バランスのとれた解決策を | 多面的な効果を持つ「環境用水」の積極的な導入 | |
| | | 発電放流による水位の日間変動が大きく、利水に影響がある | | |
| | | 地球温暖化による水利用形態の変化への対応 | | |
| | | 新しい水利用を考慮して、今後発生する問題も含めて検討すべき | | |
| | | 大規模ダム以外の形での水資源開発 | | |
| 河川環境(生物・景観・触れあいの場)に関する意見 | 過去の歴史や文化、自然を考慮し、人間と千曲川の関わりを伝える整備計画 | 流域の景観、河畔林、動植物等の環境要素を正確に把握し、整備計画に記載すべき。 | 信濃川下流沿川全体の環境を踏えた計画内容の検討 | |
| | 治水や環境を考慮した上での河川利用計画の策定 | 基本方針で景観の基本的な考え方を押さえる | 信濃川と関係する遺跡の保存・活用を踏まえた計画の策定 | |
| | 千曲川沿川で培われた知識や知恵を現代なりに再構築 | 本川の環境、景観は、支川も含めた幅広いものから構成されている。 | 歴史的な背景を踏えた整備計画の検討(サケの遡上、舟運) | |
| | アユ等の回遊魚の復活のための流域全体の取り組み | 全体の景観は、自然景観と人工の景観の両方で形成されている。 | 史跡整備やまちづくりと一体になった河川整備の推進 | |
| | 減水区間におけるサケの遡上 | 大規模な構造物だけでなく、小さな構造物もデザインの概念が必要 | 人の営み・暮らしの面からの計画内容の検討 | |
| | サケが遡上可能な河川整備 | 一層の水質改善を図る上で、農業関係機関との連携が重要。 | 河川とまちとのつながりを踏えた計画検討 | |
| | 外来種対策 | 絶滅危惧種は自然豊かな川辺の景観を創出している。 | 川の中からの景観を勘案した整備の実施 | |
| | 生態学術研究の河川管理への活用 | 外来種の駆除 | 信濃川そのものの景観(近景)の豊かさを踏えた計画内容の検討 | |
| | 外来種対策としての高水敷利用 | | 農業利水、氾濫、濁水、水質汚濁に配慮した河川整備の実施 | |
| | 高水敷利用のための占用許可条件の緩和 | | 信濃川の特徴を踏えた計画内容の検討(サケ・マス漁) | |
| | 堤防天端の一般道利用 | | 信濃川の特徴を踏えた計画内容の検討(内水面漁業、漁種) | |
| | 災害時の対応能力向上を副次目的とした河川利用の取り組み | | 安心して利用ができる観点からの多自然川づくりの推進 | |
| | 今後の河川利用や地域連携のあり方 | | (ヨーロッパの河川のような)河川の日常的な空間利用を考慮した計画内容の検討 | |
| | 自治体、民間による高水敷の整備や管理 | | 「やすらぎ堤」における休息空間の検討(植樹) | |
| | ゴミの発生の抑止、方策の検討 | | 河川空間の利活用に向けた取組みの推進 | |
| 河川管理の住民参加 | | 河川とその周辺をつなぐを踏えた計画の策定 | | |

| | 上流部会意見 | 中流部会意見 | 下流部会意見 | 全体会議 とりまとめ意見 |
|---------------|--------------------------------|---|---|-----------------|
| 維持管理に関する意見 | 樹木管理対策 | 的確な維持管理も治水である。 | 多様な河川管理手法の検討 | |
| | 地下水低下対策 | 桜づつみ等で、樹木の適正な管理が必要。 | | |
| | 土砂管理対策(河床低下・土砂堆積) | 整備計画で住民の目が川に向くようになれば、ゴミ投棄の解決策につながるのではないか。 | 「水と緑の空間」として魅力を高める樹木伐採の方法の検討 | |
| | | 必要ならば伐採もやむを得ないが、景観を創出する川辺の樹木をむやみに伐採することには反対 | 住民参加、関係機関との連携による河川管理の推進 | |
| | | 豪雪に対する具体的な対応 | 不法投棄対策の推進 | |
| 整備計画全般に関する意見等 | 上下流の整備バランスのとれた河川整備のための水系一括管理 | 信濃川中流に住んでいる住民の気持ちを反映させた整備計画を策定する必要がある。 | 日本の大河川「信濃川」ということを念頭において目標の設定 | |
| | 予算を見据えた計画策定 | 整備計画との関連をよく考えた上で、意見、対応の取捨選択も考える必要がある。 | 「新潟らしさ」の反映による整備計画の策定 | |
| | 長野県管理区間の国直轄管理への編入 | 地域のニーズは多様化していることから、エリア別にテーマをつくり、整備していくことも大切である。 | 信濃川の持つ具体的な豊かさを踏えた整備計画の策定 | |
| | 住民との知識の共有に役立つ、千曲川の特性を加味した副読本作成 | 優先度を明確にした上で、段階的な整備を検討。 | 信濃川の歴史的役割の明確化 | |
| | | 県管理区間における安全確保のため、関係機関と連携 | 治水、利水、環境の調和がとれた整備計画の策定 | |
| | | 整備計画で絶滅危惧種という言葉を使っていたきたい。 | 流域の問題点を明確にした整備計画の策定 | |
| | | 川が持っている環境全体の利用という観点から、利水に替わるよい言葉はないか。 | 信濃川流域の歴史・文化・風土を踏まえた、「信濃川らしい」計画内容の検討 | |
| | | 流域の子供たちに信濃川の歴史的意義などを教えることも重要。 | 時間軸を意識した整備の実施 | |
| | | 住民と川の関係性を正確に把握する必要がある | 住民参加組織による河川管理検討 | |
| | | 大河津分水でのおいらん道中も川との関わりの中で取り上げられないか | (川の楽しさや怖さを認識させていく為)、もっと川に人が近づき易く、楽しめる場、認識を深める場の提供 | |
| | | 地域住民はツツガムシ病を非常に心配している。 | | |
| | | 広報について、住民や自治体との間にコミュニケーションギャップが生じないよう、工夫が必要。 | | |
| | 土砂の挙動予測も行うべき | | | |